



中嶋睦男さんとカスミノウのハウス。台風にはロープ（矢印）を張るだけのシンプル対策。アーチパイプ（22口径）は厚さ1.6mm（テンロク）の肉厚パイプを使う

ロープだけで ビクともしなくなる

岡山県浅口市・中嶋睦男さん

「ロープを張ってハウスを固定すれば、台風でもビクともしないよ」

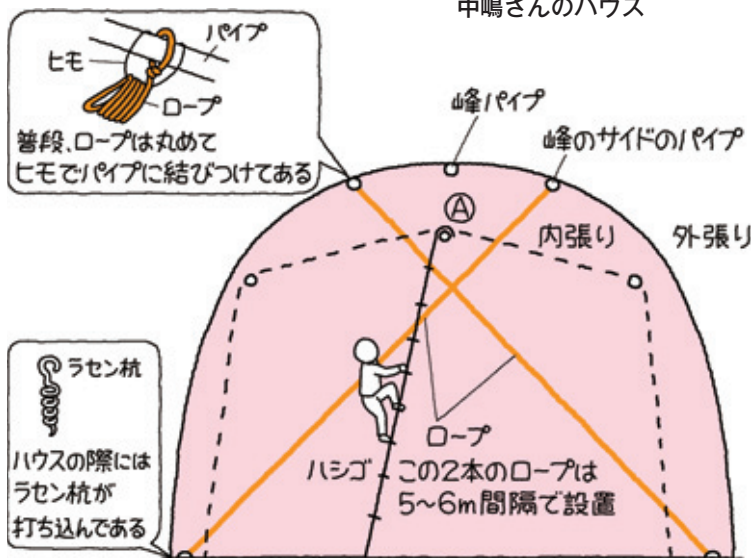
というのは、中嶋睦男さん（六九歳）。六棟（約六〇〇坪）のパイプハウスでカスミノウとトルコギキョウをつくるベテラン農家だ。

中嶋さんのハウスの強化対策はロープをハウス際に打ち込んだラセン杭に固定するだけというシンプルなもの。

「簡単だけど効く。大人が五人ハウスに乗って揺らしてもビクともしなかったほど。ロープを張っておけば、台風も雪も怖くない」と言い切る中嶋さん。そのやり方が左上の図だ。

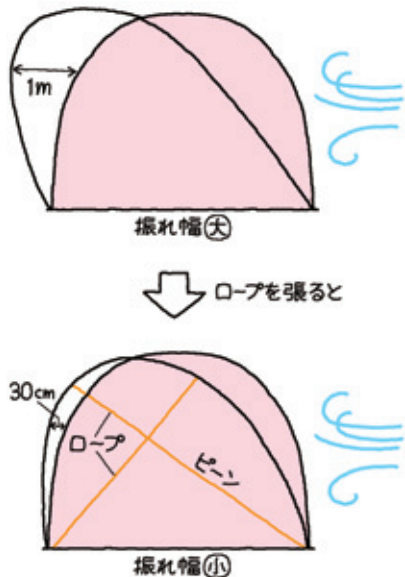
中嶋さんによると、風速二〇〜三〇mの風が吹くとハウスの天井部は左右に1m近くも押されて動く（左図）。大抵のハウスはその揺れには耐えるのだが、怖いのは第二波だ。風に押された天井部が元に戻る前に連続して次の強風が吹くと、パイプは耐えきれずにめげてしまう（曲がったまま戻らなくなる）。

中嶋さんのハウス



台風が来たら①ハウス（外張り）を密閉
 ②内張りを両側から③のパイプまで巻き上げる
 ③④にハシゴをかけて天井のロープを下ろす
 ④ロープの端をそれぞれハウスの反対側に引っ張ってハウス際のラセン杭に固定（2本のロープが交差する）

ロープの効果



ロープで固定すれば、天井部は三〇cmほどしか押されない。これならすぐに元に戻って、第二波にも耐えられるという仕組みなのだ。

平成三年の台風一九号で当時三棟あったトルコギキョウのハウスのうち、二棟を潰してしまった経験がある中嶋さん。「今の花の単価じゃ潰れたハウスを建て直す経費は出ないよ。ロープを張るのは誰にでもできるし、絶対にお勧め」という。

編



ハウス内に針金（矢印）を張って、雪の重みで天井が歪まないように締める
（写真はいずれも三島均氏提供）

ここにも「無敵のマイハウス」 雪に強くて 活用までしちゃうハウス



ターンバックル

北海道岩見沢市・倉田正美さん

**針金で締めれば
潰されない**

そろそろ雪が降り始める季節。ハウスの冬支度はすませただろうか。

豪雪地帯の北海道岩見沢市で、「うちのハウスはちよつとやさつとの雪では潰れないよ」というのはイチゴ農家の倉田正美さん。

毎年のように潰れるハウスがあるという地域にあって、四〇〜五〇cmの雪にも耐えられるようハウスに施した工夫が上の写真。

ハウスの肩の位置に針金（一二〜一四番）を張って、雪の重みで天井が広がってしまわないように（アーチパイプが潰れないように）締めつけている。締めつけっぱなしでは針金が伸びてしまうので、片側にはターンバックルを取り付けてあって、締めたり緩めたりを



貯雪槽の中。すのこを敷いて雪と冷水を分ける

ハウス脇に設置した貯雪槽(大)と熱交換箱(小)。熱交換箱の中にラジエーターがあり、ダクトで冷気をハウス内に送り出している

いずれにせよやかいな雪。だが倉田さんは二〇〇九年から地域の取り組みとして、この雪を夏場のハウスの冷房や、クラウン冷却に活用している。

冬の間に積もった雪は、土場とよばれる沢に集めて、春

雪をとっておいでクラウン冷却に活用

調節できるようになっている。ハウスの長さは一〇〇m。針金は1mおきに一〇〇本張っている。「一〇年前に一回潰しちゃった」という倉田さん。以来、この方法で一度も負けていない。

夏は、この針金の上に寒冷紗を広げて暑熱対策にも利用している。天井に登らなくてすみ、非常にラクだ。



雪は2日に一度、業者に運んでもらっている

にブルーシートで覆っておけば九月まで溶けずにもつ。

倉田さんのハウス横には貯雪槽が設置しており、そこに二日にいっぺん土場から雪を運び入れる。そしてイチゴ株元のパイプに冷水を循環させ、冷風もダクトでハウスに引き込んでいる。

品種を変えたこともあるが、以前は一株あたり一パックとれないこともあった夏秋イチゴが、おかげで二〜三パックとれるようになった。

編